

# ホンダ

## F310

取扱説明書

お買いあげありがとうございました。  
ご使用になる前に必ずこの取扱説明  
書をお読みください。

**お買いあげありがとうございます**

**ございました。**

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

ホンダF310は小型、軽量で汎用性に富んだティラーです。

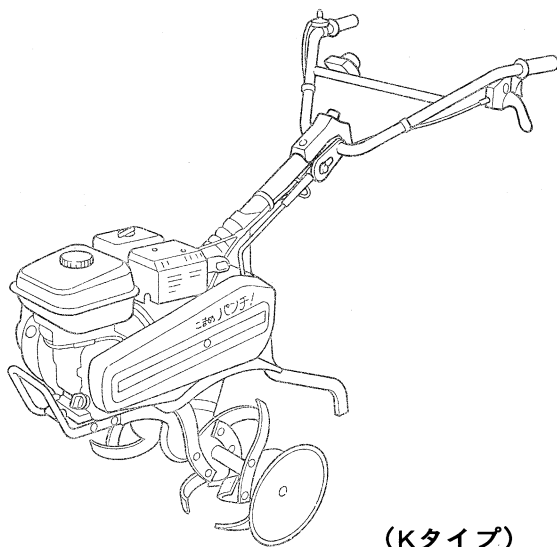
安全、快適にお使いいただくために正しい取扱いをしましょう。

本書はBAタイプを中心にまとめてあります。

ホンダF310は、小型特殊自動車の認定を受けて

いません。一般公道でのトレーラ走行はで

きません。



(Kタイプ)

トレーラ走行はできません。

( 小型特殊自動車の認定を )  
受けていません。

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

# 目 次

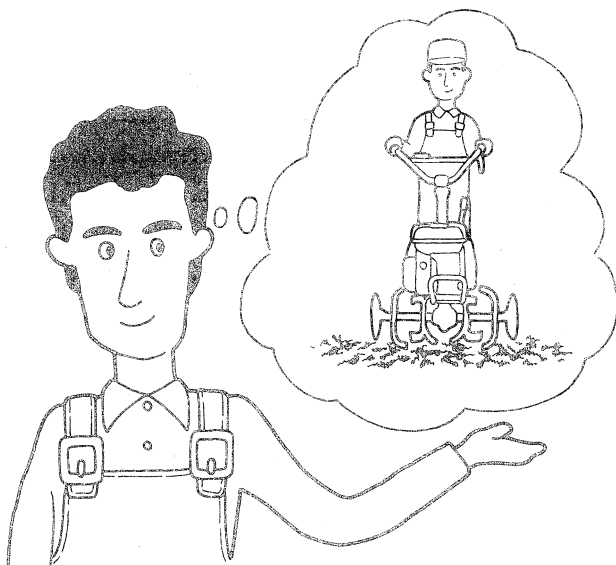
安全にお使い いただくために	これだけはぜひ守りましょう	4
各部の名称と取扱いをおぼえましょう		8
エンジン	スイッチ	12
エンジン	回転調整レバー	12
クラッチ	レバー	13
変速	レバー	14
始動	グリップ	16
チョーク	レバー	16
燃料	コックレバー	17
エンジン	キルスイッチ(BA、K、KAタイプ)	17
ハンドル	固定レバー(BAタイプ)	18
ハンドル	高さ調整レバー(K、KA、KC、KRタイプ)	19
ヒッチ	ボックス(作業機取付け部)(BA、K、KA、KCタイプ)	20
ドラック	バー(抵抗棒)(K、KCタイプ)	20
駆動車輪	取付けピン(KRタイプ)	21
動力	取出し軸(KRタイプ)	21
ロータリー	(KRタイプ)	22
エンジンをかける前に点検しましょう。		25
ガソリン	の点検	25
エンジン	オイルの点検	26
空気清浄器(エア クリーナ)	の点検	27
変速機	オイルの点検	28
エンジンのかけかた		29
運転操作のしかた		33
変速		33
1. 変速	レバー	33
運転		35
2-1. クラッチ	レバー	35
2-2. 固定	レバー	36
3. エンジン	回転調整レバー	36

エンジンのとめかた .....	37
定期手入れを行ないましょう .....	39
日常点検 .....	39
定期点検 .....	40
やさしい点検・整備 .....	41
携帯工具 .....	41
エンジン オイルの交換 .....	42
変速機オイルの点検 .....	43
空気清浄器(エア クリーナ)の清掃 .....	44
点火プラグの清掃、調整 .....	45
燃料ろ過カップの清掃 .....	46
エンジン回転調整ワイヤーの調整 .....	47
クラッチ ワイヤーの調整 .....	48
駆動ベルトの調整 .....	49
長期間使用しない時の手入れ .....	51
故障のときは .....	52
主要諸元 .....	53
製品受領書	
保証書	

安全にお使い  
いただくために

# これだけはぜひ守りましょう

ティラーは正しく取扱ってください。ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で、能率的な農作業のために次のことを必ずお守りください。



## ●安全のために知っておきたいこと

★日常点検、整備を忘れずに。

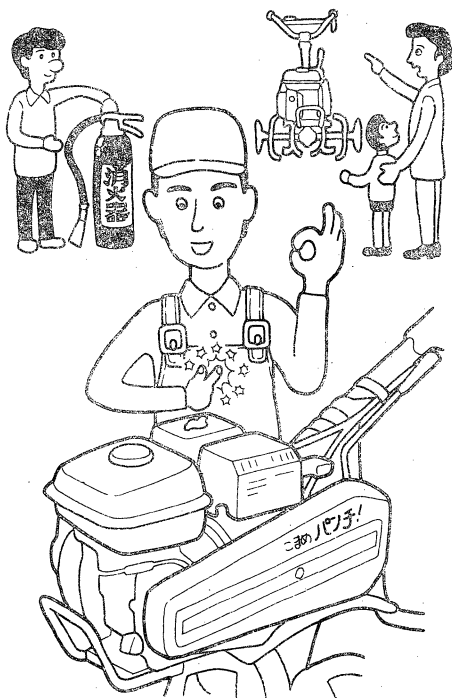
(作業機を上げて点検する場合は、必ず落下防止を行ってください)

★工具を適切に管理し、正しく使用する。

★子供を乗せたり、近寄らせない。

★衣服や頭髮、手ぬぐいなどが巻込まれないよう、服装には十分注意する。

★火災の恐れがある場所での作業は、十分に注意し、消火器など火災予防の措置を講ずる。



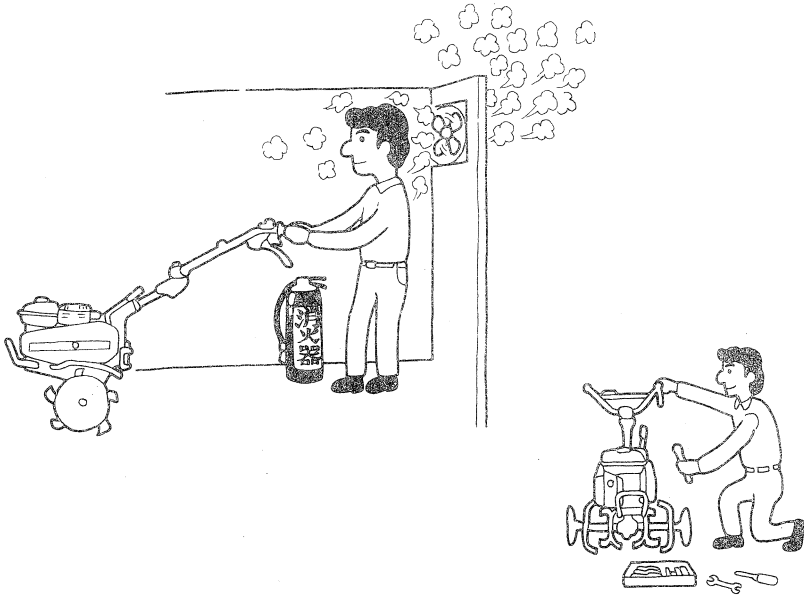
## ●作業を始める前に

### ★必ず点検、整備を行なう。

- ・点検作業は、通行の妨害及び危険等のない平坦で安全な場所で行なう。
- ・屋内でエンジンをまわしながら点検する場合は換気に十分注意する。
- ・装着する作業機に合わせて適正バランスを保つ。

### ★防護装置の保全

- ・防護装置は正しく取付けられているか。
- ・点検、整備のため取り外された防護装置は、正しく復元され、十分に機能を発揮するかどうか。



## ●作業中の注意

- ★作業中は、まわりに十分注意し、関係者以外の人を近づけない。
- ★傾斜地では、転倒を防ぐため速度や旋回などに十分注意する。
- ★作業場への出入り、溝または畦畔の横断、軟弱地の通過など、転倒には十分注意する。
- ★作業中は、動力伝達装置や回転部に接触しないよう特に注意する。



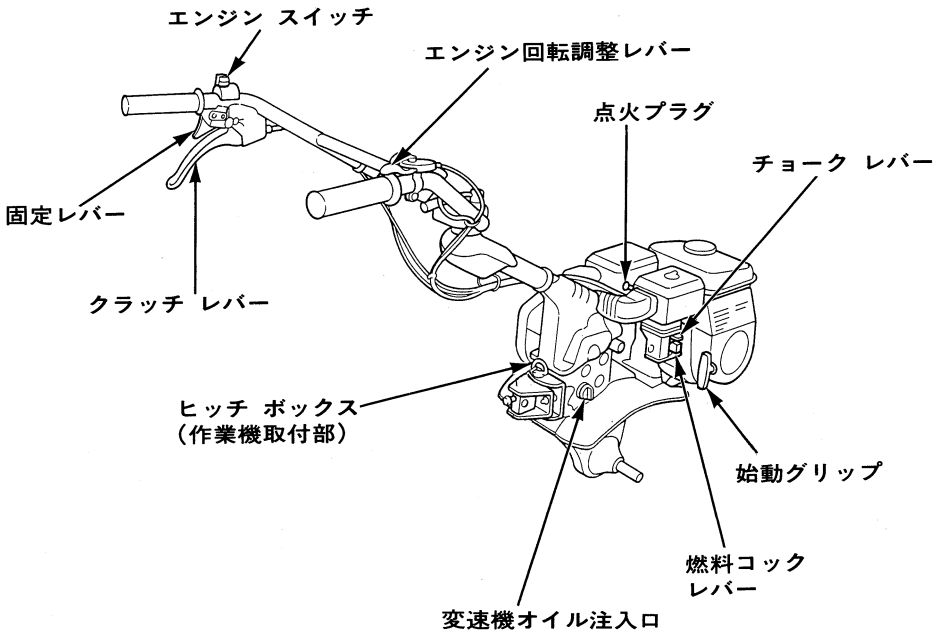
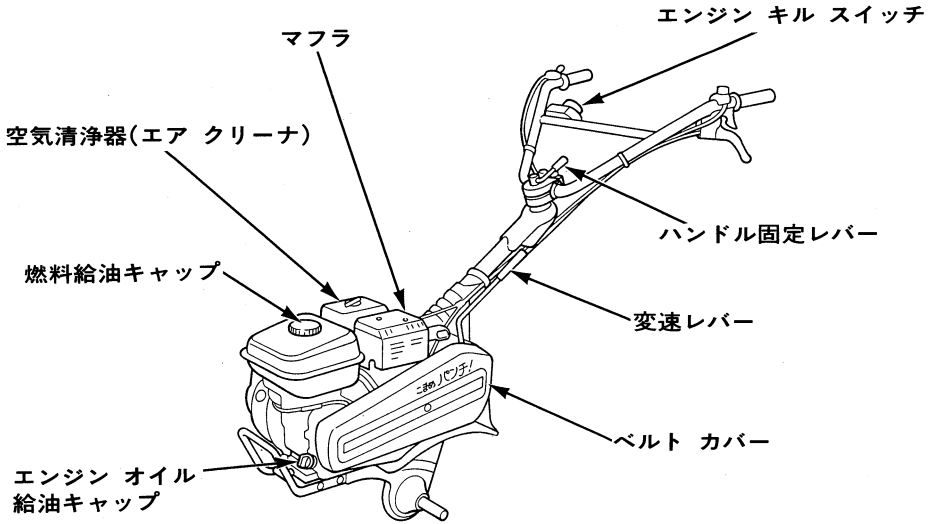
- ★作業場への出入り、溝または畔越えを行うときは、アユミ板等を使用してください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなく危険です。
- ★車軸作業機を取付ける場合は、車軸取付部のガタを必ず確認してください。異常にガタがある場合、そのまま使用すると本機を破損するばかりでなく危険です。お買いあげ販売店へお申しつけください。
- ★土塊や石などがとび散る作業においては傷害に注意する。
- ★作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行なう。
- ★休けいなどで本機を離れる場合はエンジンをとめて安定した場所で確実に固定する。
- ★ガソリン補給時、必ずエンジン停止、火気厳禁。
  - ・ガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾かしてから始動する。

## ●作業が終わったら

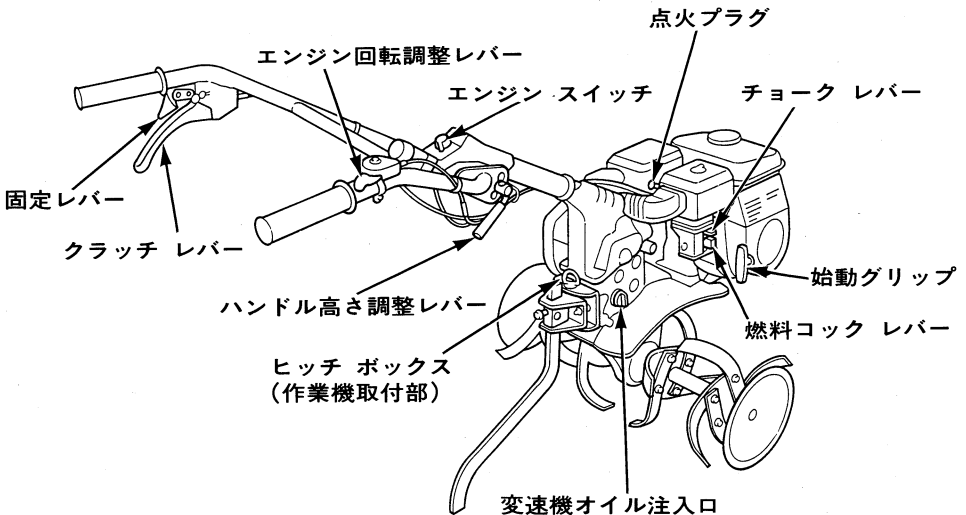
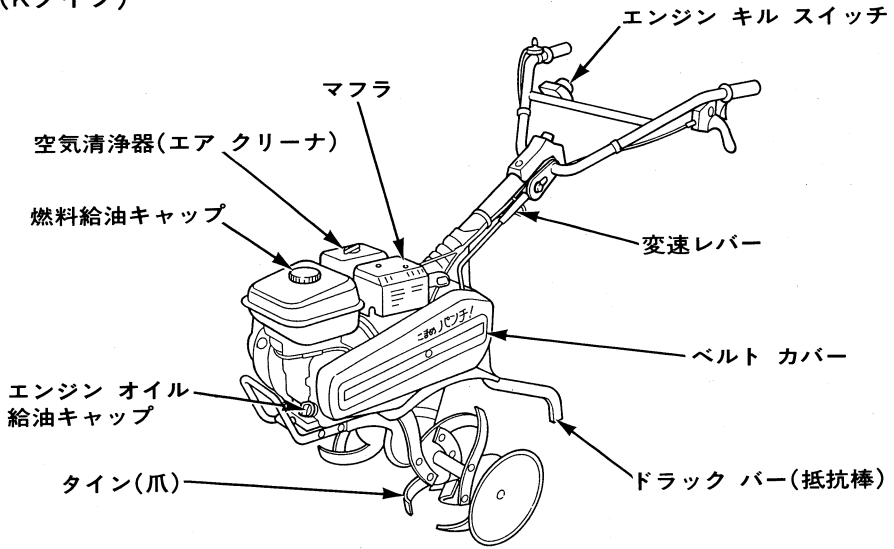
- ★次の作業のために機械の点検、整備を行なう。
- ★作業機の取り外しは、平坦で安全な場所で行なう。
- ★トラック等への積降し時は、転倒や落下に注意する。
- ★洗車時にはハンドル コラム先端の吸気取り入れ口、空気清浄器(エアクリーナ)のカバー締付部付近、電装品、および気化器に水がかからないように注意してください。これらの部分に強く水をかけると内部に水が侵入し、本機不調の原因となる場合がある。
- ★保管は、安定した場所で安全な状態で行なう。
  - ・ハンドルを地面に付けた状態で保管するとガソリンが漏れたりエンジンがかかりにくくなることがあるので、必ずドラック バー(抵抗棒)等を接地させて置くこと。
- ★エンジン上部に物をのせるのは厳禁。
  - ・特にマフラ(消音器)は熱くなっているので、ポリタンク等をのせると変形や漏れ等が発生する場合がある。
- ★屋外に放置する場合は、エンジンが冷えてからボディ カバー等をかけ、本機に雨水がかからないようにする。

# 各部の名称と取扱いをおぼえましょう

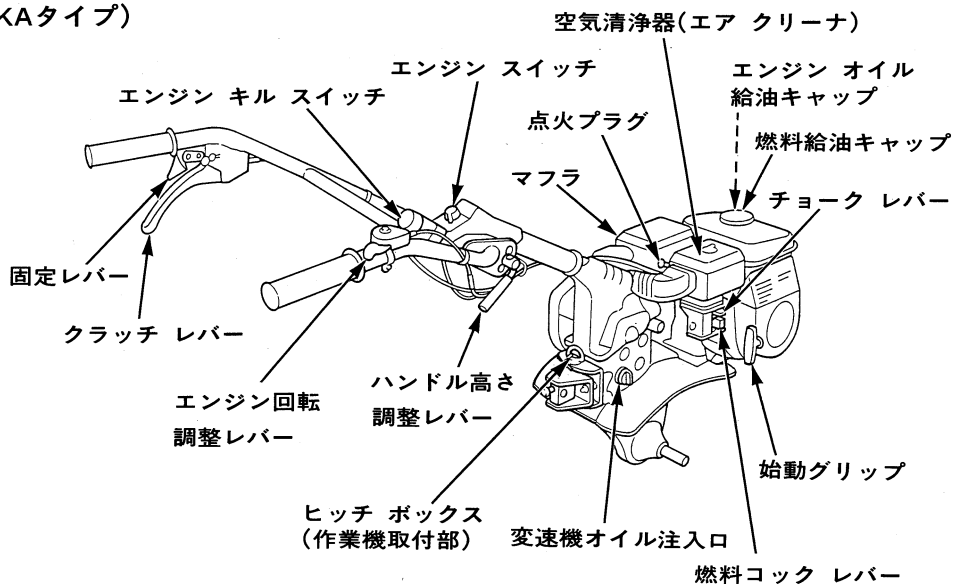
(BAタイプ)



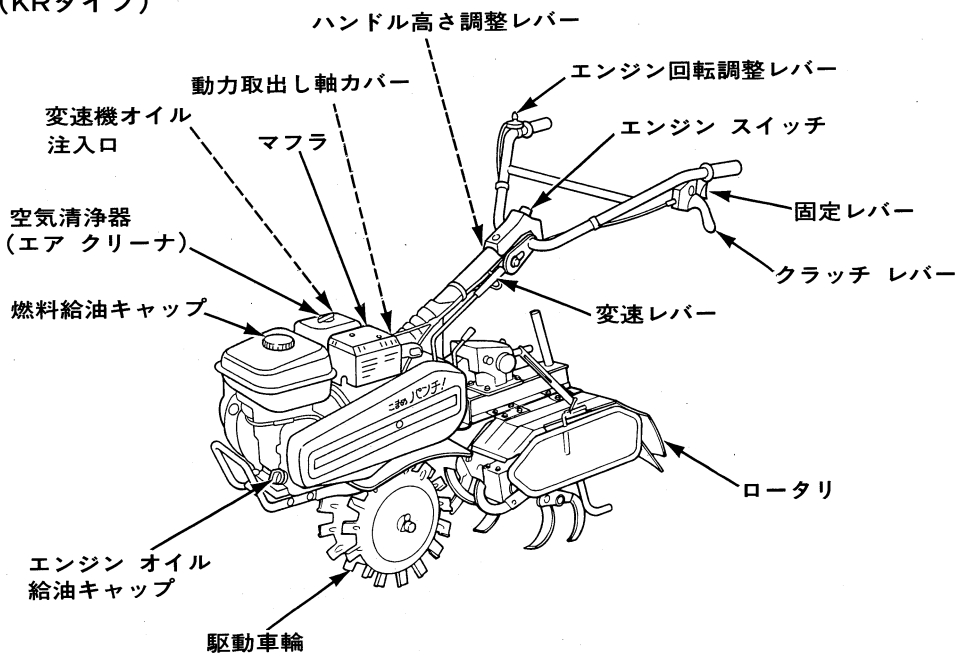
(Kタイプ)



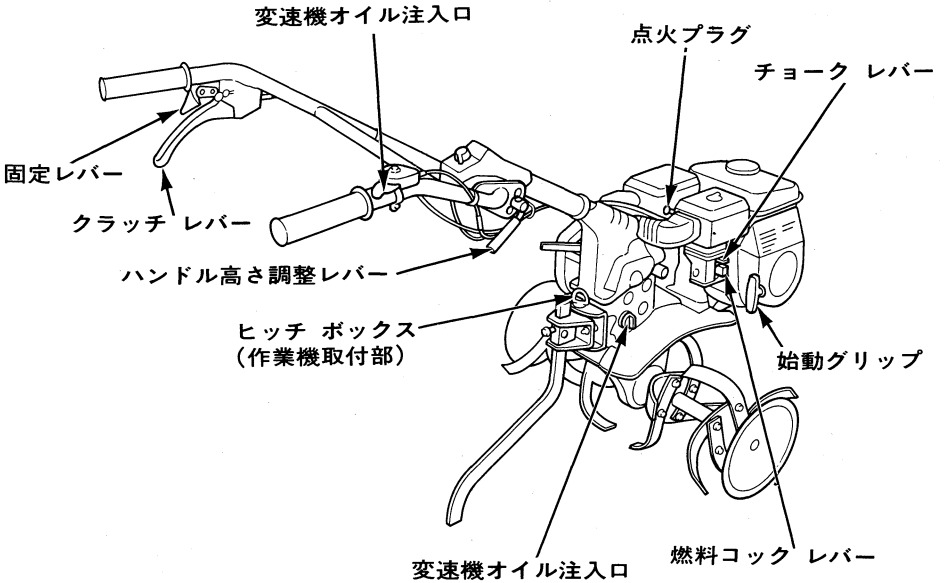
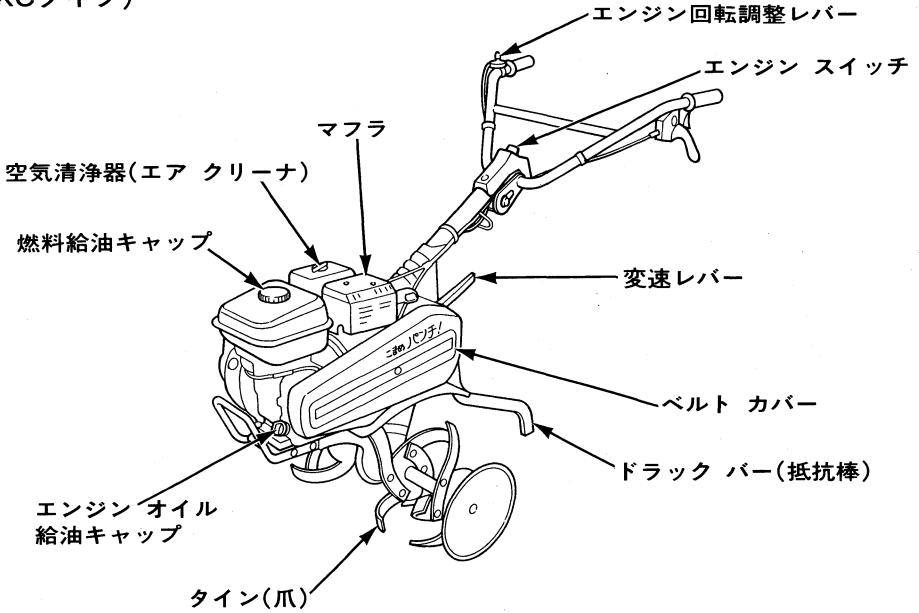
(KAタイプ)



(KRタイプ)



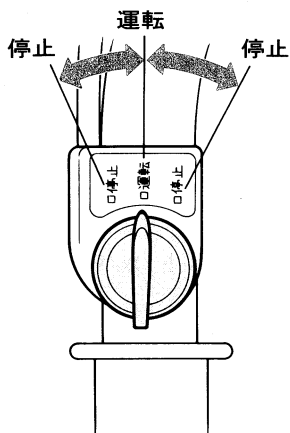
(KCタイプ)



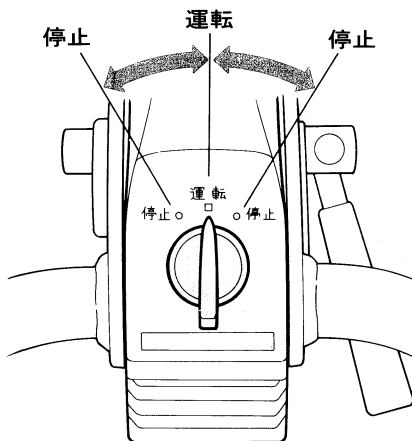
## エンジン スイッチ

スイッチは、エンジンの運転、停止をする時に操作します。

(BAタイプ)



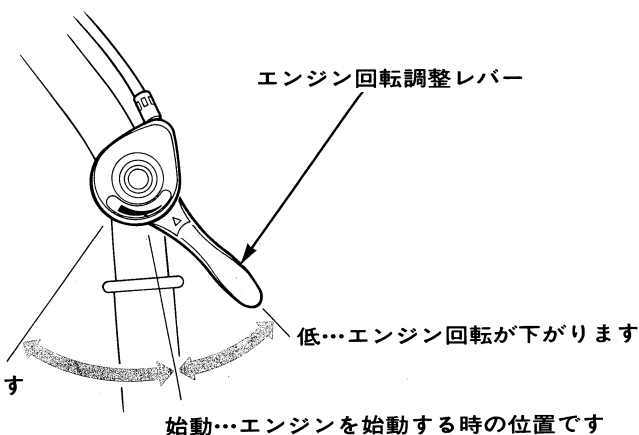
(K、KA、KC、KRタイプ)



## エンジン回転調整レバー

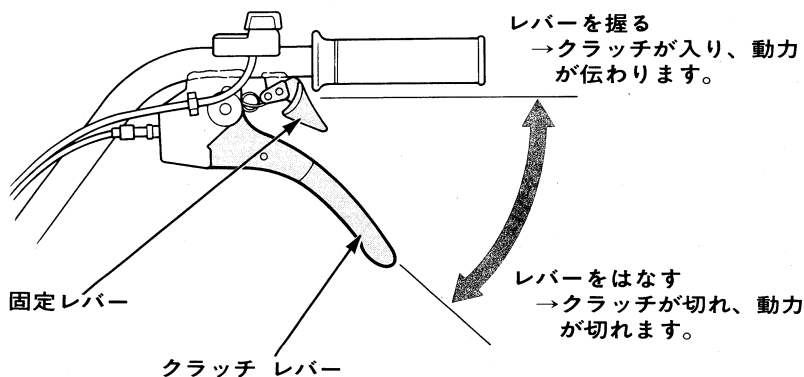
エンジンの回転を調整するものです。

エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。



## クラッチ レバー

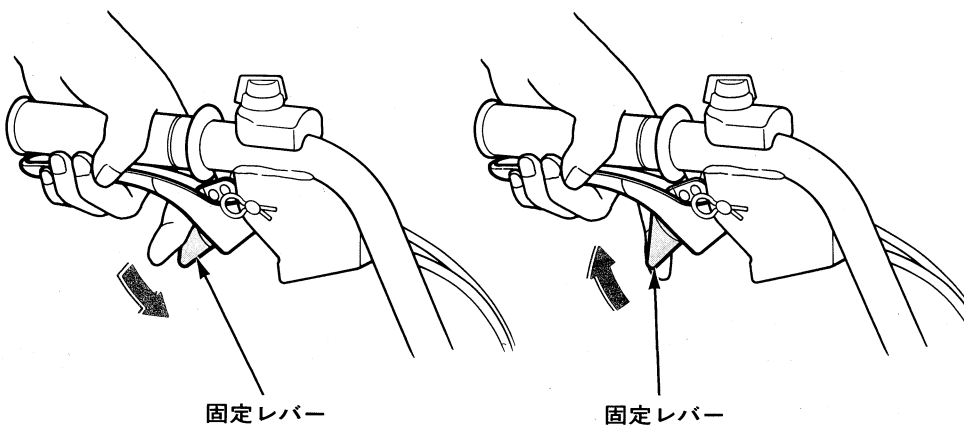
クラッチは、車軸への動力を断接する装置です。



- クラッチ レバーを握って固定レバーを指で押すとクラッチ レバーは固定されます。
- 解除するときは、固定レバーを手前に引き、クラッチ レバーをはなします。

(固定)

(解除)

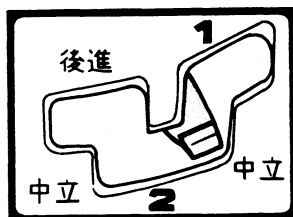
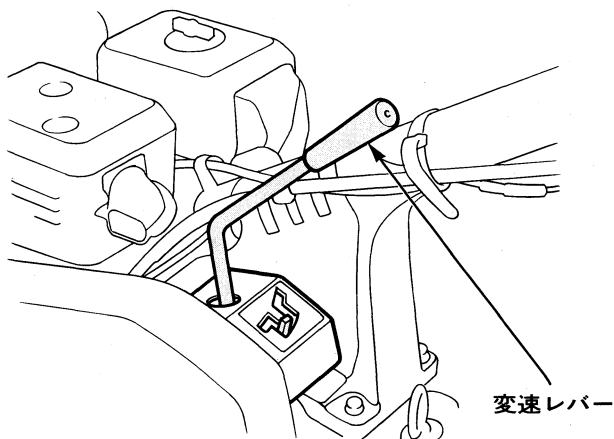


## 変速レバー

(BA、K、KAタイプ)

ティラーの速度を変える時に操作します。

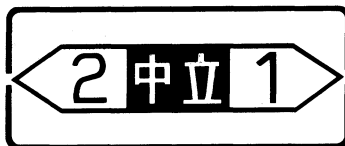
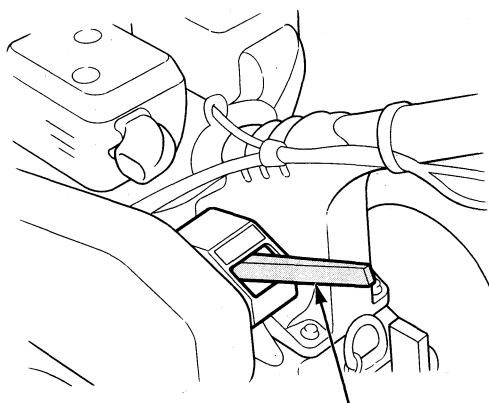
変速は、前進2段、後進1段です。



(KCタイプ)

ティラーの速度を変える時に操作します。

変速は、前進2段です。



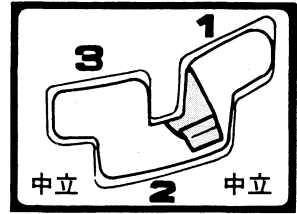
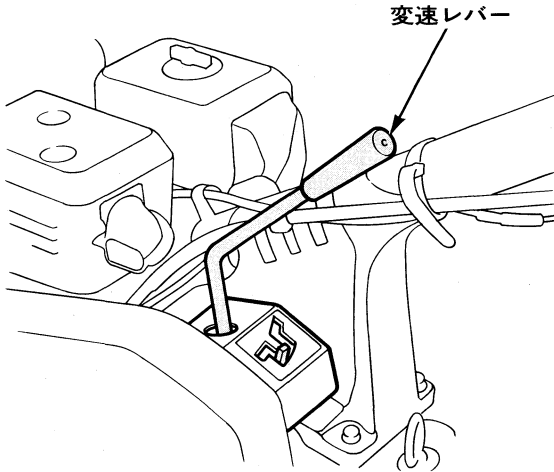
変速レバー



**(KRタイプ)**

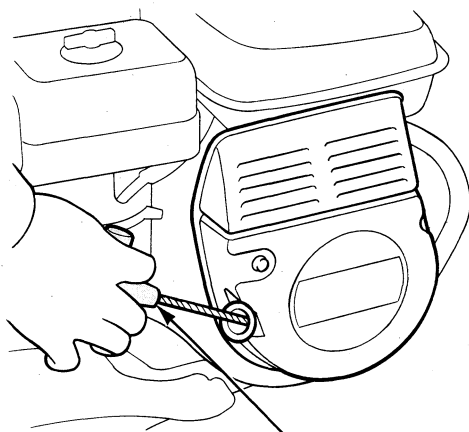
ティラーの速度を変える時に操作します。

変速は、前進3段です。



## 始動グリップ

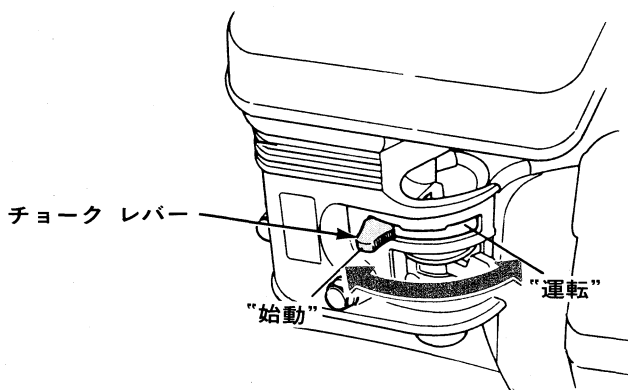
エンジンを始動する時に操作します。



始動グリップ

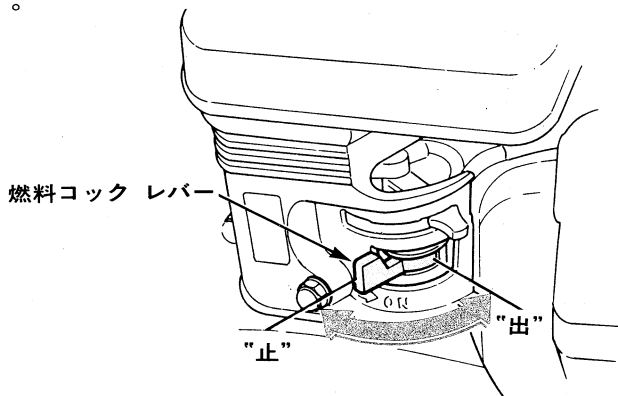
## チョーク レバー

エンジンが冷えている時、またエンジンがかかりにくい時に操作します。



## 燃料コック レバー

燃料コック レバーは、タンクのカソリンを出したり止めたりする時に操作します。



## エンジン キル スイッチ(BA、K、KAタイプ)

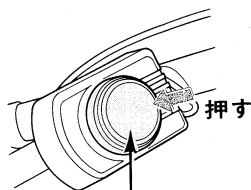
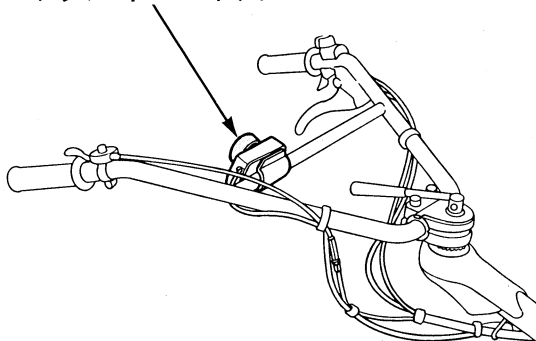
エンジン キル スイッチは押すだけでエンジンが停止できます。

エンジン停止後、(エンジン スイッチは**“運転”**の状態)始動グリップを引くとエンジンが始動します。

注意

- 通常エンジン停止、保管、点検時は、エンジン スイッチを“停止”にしエンジン キル スイッチは使用しないでください。

エンジン キル スイッチ



エンジン キル スイッチ

## ハンドル固定レバー(BAタイプ)

ハンドル高さ調整とハンドル角度調整は、ハンドル固定レバーを3～4回ゆるめることにより、同時に任意の位置へ調整することができます。

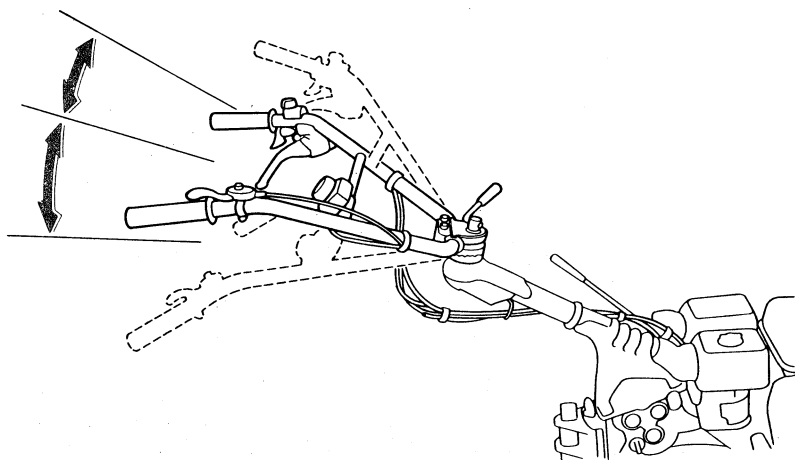
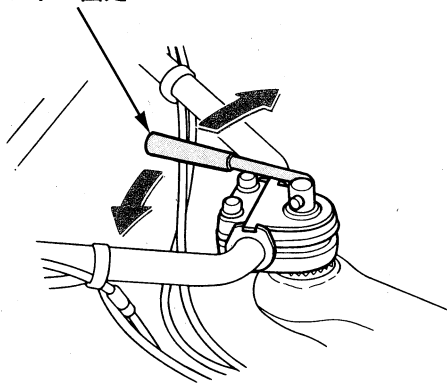
調整後はハンドル固定レバーを確実に締めつけてください。

作業内容、作業者の身長に合わせて使用ください。

### ハンドル高さ調整：

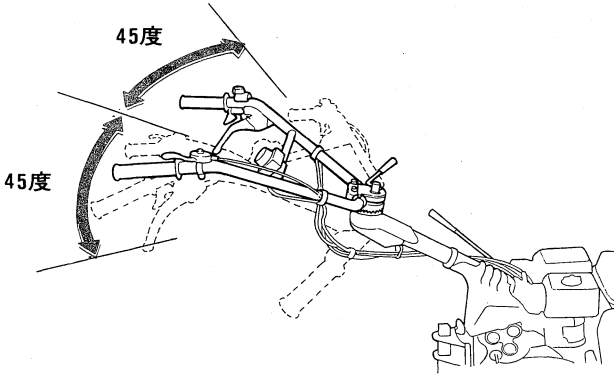
ハンドル固定レバーをゆるめ、ハンドルを任意の高さに調整してください。

### ハンドル固定レバー



## ハンドル角度調整：（左右方向）

ハンドル固定レバーをゆるめ、ハンドルを任意の角度に回転させ、調整してください。ハンドル角度は図のように左右45°以内で調整してください。



注意

ハンドル角度調整は左右45度以上回転させないでください。  
ワイヤ類が引っぱられて、本機に悪影響を与えることがあります。

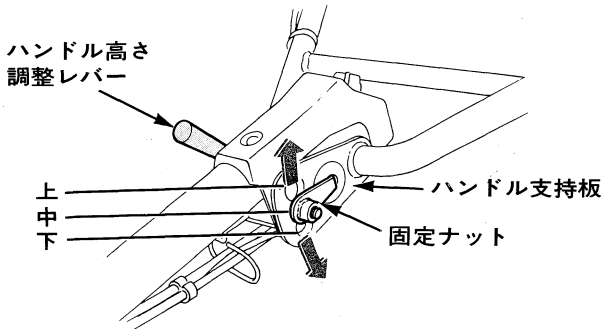
## ハンドル高さ調整レバー

（K、KA、KC、KRタイプ）

ハンドルの高さを、作業内容、運転者の身長に合わせるレバーです。

### 《調整のしかた》

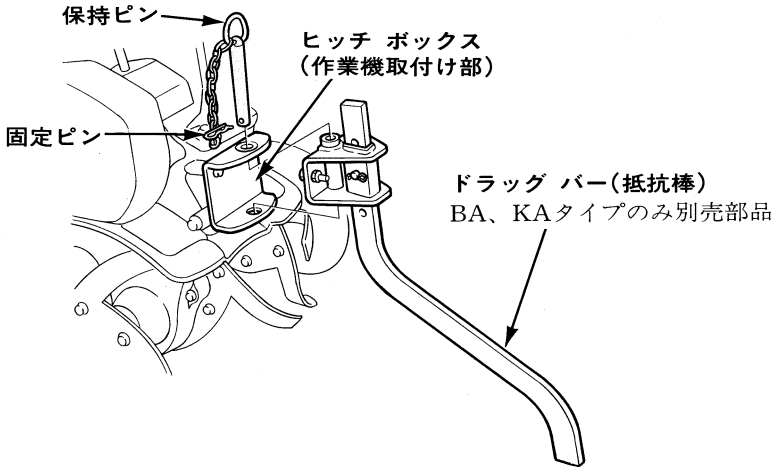
ハンドル高さ調整レバーを回しながらゆるめ、ハンドルを上下移動し、固定ナットを任意の穴へ移動しハンドル高さ調整レバーを確実に固定します。



## ヒッチ ボックス(作業機取付け部)(BA、K、KA、KCタイプ)

作業機を取付けるところです。

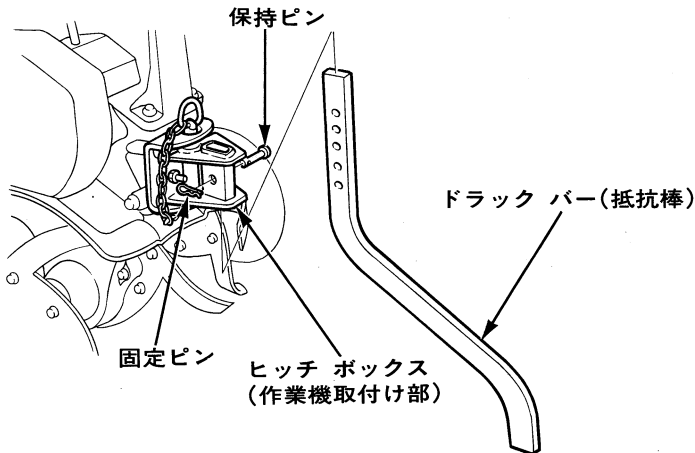
取付けは、保持ピンを差し込みます。保持ピンは、固定ピンで取付けます。



## ドラッグ バー(抵抗棒)(K、KCタイプ)

耗うん深さを調節する時、ドラッグ バーを上下させて調節します。

調節は任意の穴位置に保持ピンを差し込み固定ピンで取付けます。

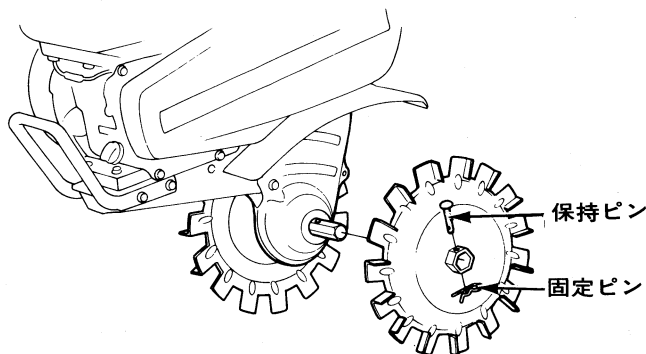


## 駆動車輪取付ピン(KRタイプ)

駆動車輪の取付け、取外しを行う時に取扱います。

**注意**

- ・車輪を取外す時は、2人で行うか棒等で支え転倒に注意してください。

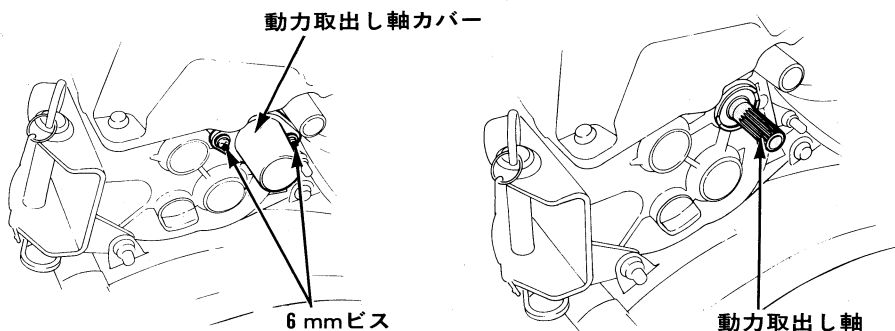


## 動力取出し軸(KRタイプ)

動力の取出しは 6 mmビス 2 本を外し、動力取出し軸カバーを外して行います。

**注意**

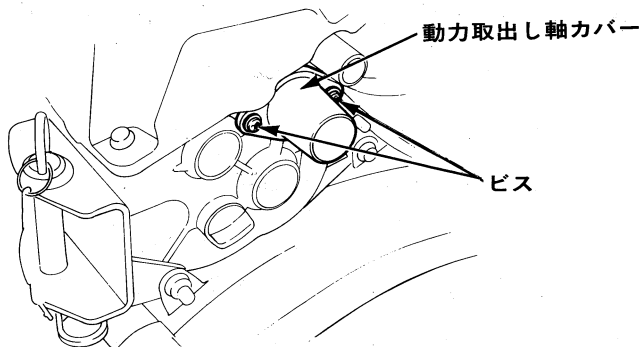
- ・変速レバーを中立にしてください。中立にしないと本機が動き危険です。
- ・動力取出し軸カバーは取出し軸を使わない時は常にカバーを取付けておいてください。カバーを付けないでおくと衣類等が巻きつくことがあります。危険です。



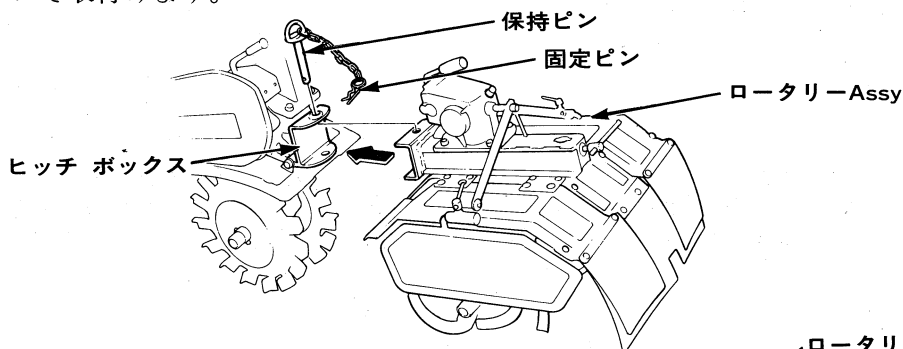
## ロータリー(KRタイプ)

### 《取付けかた》

1) エンジンを停止してビス 2 本を外し、動力取出し軸カバーを外します。

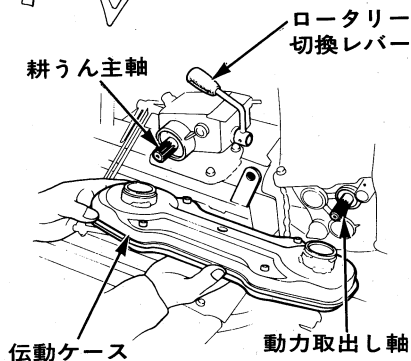


2) ロータリー Assy. をヒッチ ボックスに取付け、保持ピンを差し込み固定ピンで取付けます。



3) 耕うん主軸と動力取出し軸のスプラインに、伝動ケースをはめ込みます。

・はめ込む場合は本機とロータリーを平行にしてロータリー切換レバー“正転”又は“逆転”にして耕うん軸をまわしながら入れると取付けやすい。

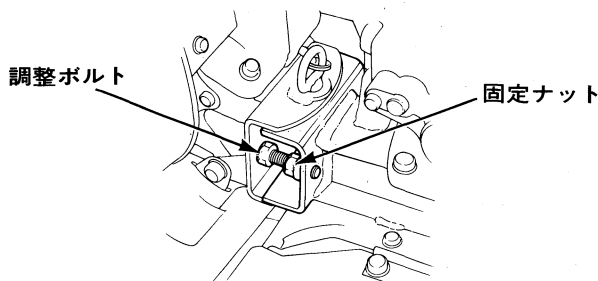




4) ロータリーヒッチ部の調整ボルトをまわして、本機とロータリーを左右同じに調整します。

調整は固定ナットをゆるめ、調整ボルトをまわして頭部が本機のヒッチボックス面を軽く押すまで伸ばします。

調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



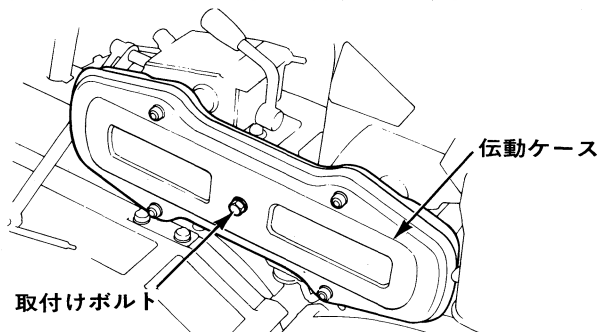
注意

・本機とロータリーのすき間が不適正のまま使用すると異常振動や故障の原因となりますので取付後、必ず再確認してください。

～1. 確認方法は伝動ケースの取付け、取外しが軽くなるか点検し、軽くなるれば正常です。

～2. もし「カタイ」場合は調整が不適正ですので再調整してください。

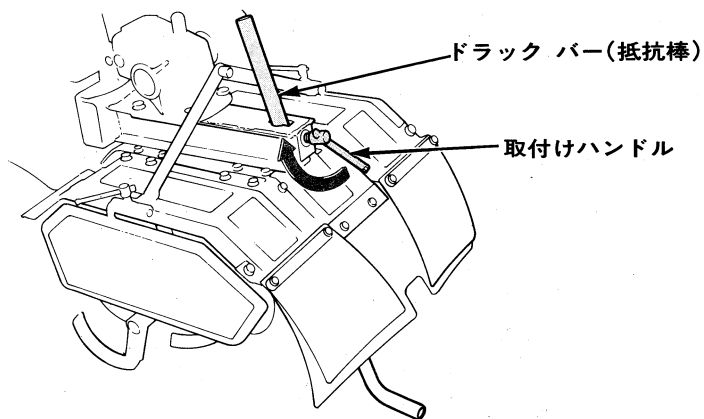
5) 伝動ケースを取付けボルトで確実に締付けます。



注意

・ロータリーを本機に取付けた後は必ず本機に対し、ロータリーがねじれた状態で取付けられないか確認してください。

- 6) ドラック バー(抵抗棒)をロータリーAssy.に差し込み、使用したい作業の高さに取付け、ハンドルで固定します。



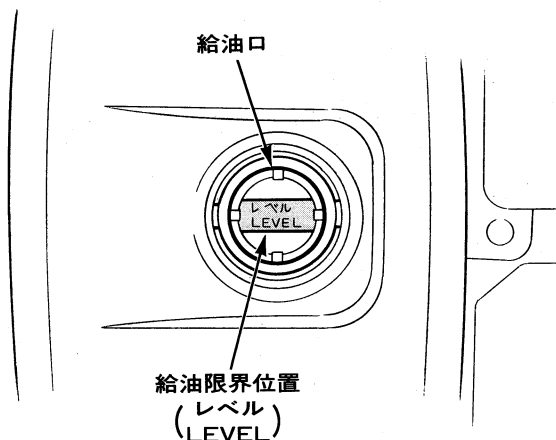
# エンジンをかける前に点検しましょう

★点検は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンをとめて行なってください。

## ガソリンの点検

### 点検

本機を水平にし燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置 (LEVEL) までガソリンがあるか点検します。すくない場合は補給してください。



### 補給

使用ガソリン：無鉛(レギュラー ガソリン)

タンク容量：1.4 l

- ・キャップを外し、給油口の給油限界位置(レベル)まで補給してください。
- ・ガソリンをレベル以上入れないでください。(本機前傾時、傾斜作業時にタンクキャップからガソリンが洩れることがあります。)
- ・キャップは補給後完全にはめ込みいっばいにまわしてください。

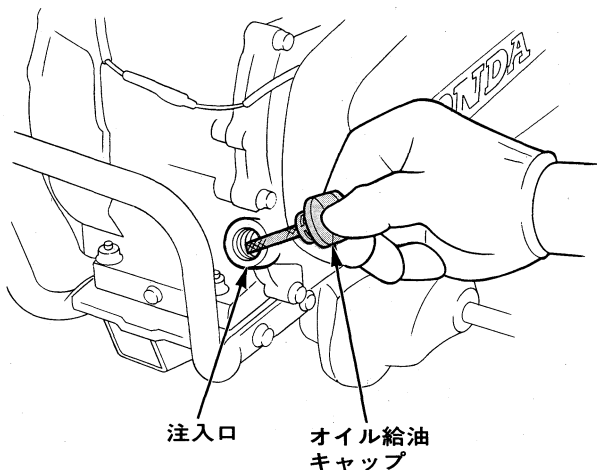
### 注意

- ・火気厳禁
- ・必ずエンジンをとめて補給してください。
- ・本機に貼られている注意ステッカーにしたがってください。

## エンジン オイルの点検

### 点検

本機を水平にしオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。



### 補給

- ・少ないときは新しいオイルを口元まで補給します。
- ・汚れや変色が著しい場合は交換してください。

(交換時期、方法は42頁参照)

- ・推奨オイル：ホンダ純正①ウルトラネオ汎用機用(SAE30)

②ウルトラ—U<2 輪車用>(SAE10W—30)

またはAPI分類SE、SF級相当のSAE10W—30オイルをご使用ください。

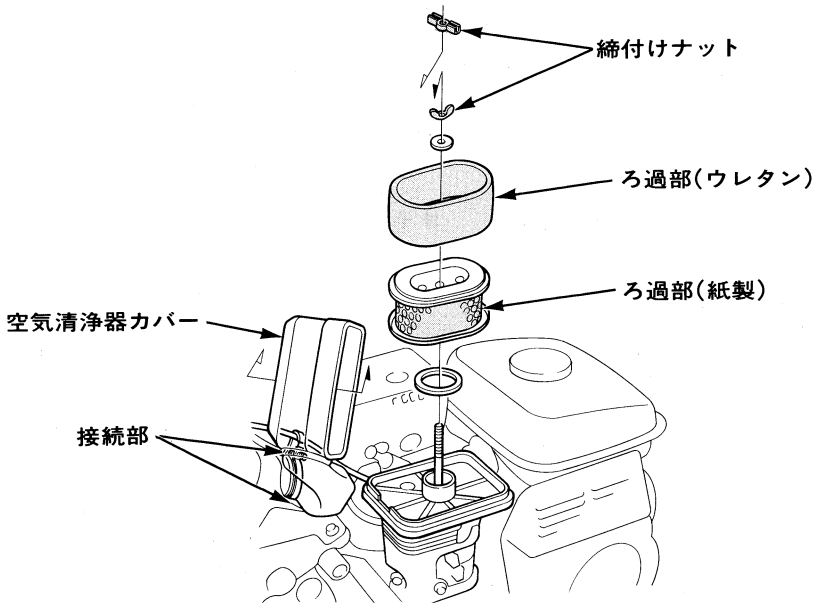
### 注意

- ・低温時(気温10°C以下)では、ホンダ純正ウルトラ—U<2 輪車用>SAE10W—30のオイルをご使用ください。
- ・寒冷時(気温—15°C以下)では、API分類SE、SF級相当のSAE 5 W—30のオイルをご使用ください。
- ・キャップは確実に締付けてください。ゆるいとオイルが洩れることがあります。

## 空気清浄器(エア クリーナ)の点検

### 点検

1. 締付けナットをゆるめ、図のように空気清浄器カバーを取り、ろ過部を取り外します。
2. ろ過部(ウレタン・紙製)が汚れていないか点検します。  
汚れている場合は清掃してください。(清掃時期、方法は44頁参照)
3. 点検後は空気清浄器カバーを確実に取付けたあと接続部がはずれていないか確認してください。



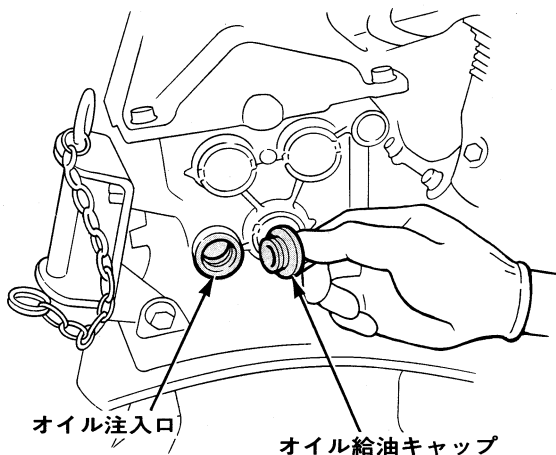
### 注意

- ・火気厳禁
- ・空気清浄器カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- ・空気清浄器カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け不良をすると、エンジンに悪影響を与える原因になります。

## 変速機オイルの点検

### 点検

本機を水平にしオイル給油キャップを外し、口元までオイルがあるか点検します。すくない場合は補給してください。

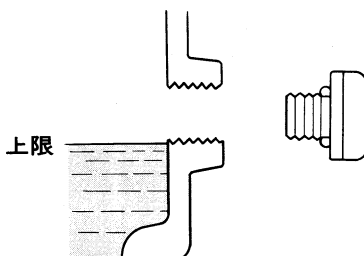


### 補給

使用オイル：新しいエンジン オイル

オイル容量：0.95 ℓ

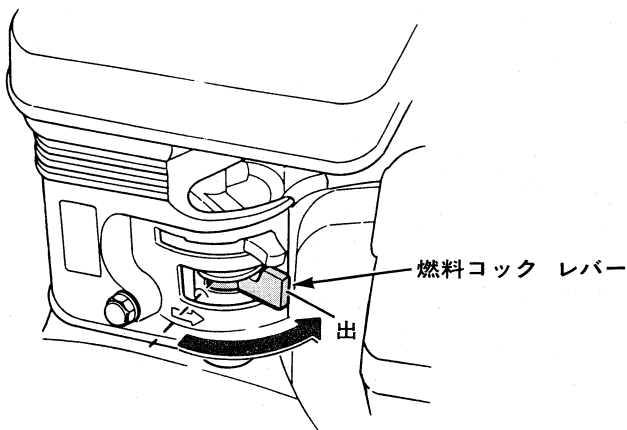
- ・給油キャップを外し、口元まで補給してください。
- ・補給後、キャップは完全に締付けてください。



# エンジンのかけかた

★クラッチレバー“切”変速レバー“中立”になっているか確認してからエンジンをかけてください。

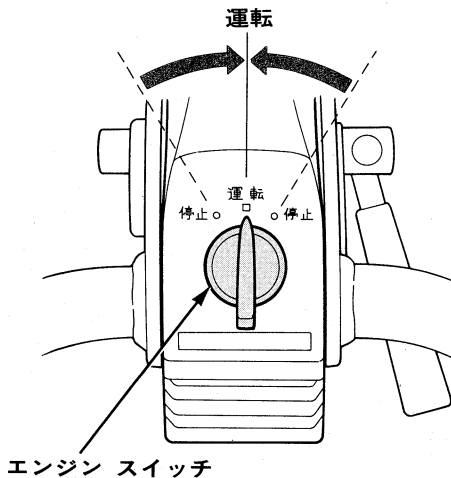
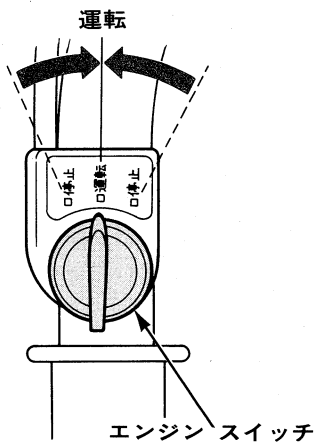
1. 燃料コックレバーを“出”に合わせます。



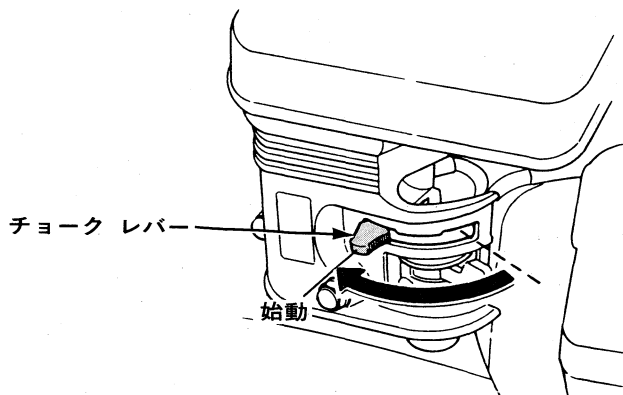
2. エンジンスイッチを“運転”に合わせます。

(BAタイプ)

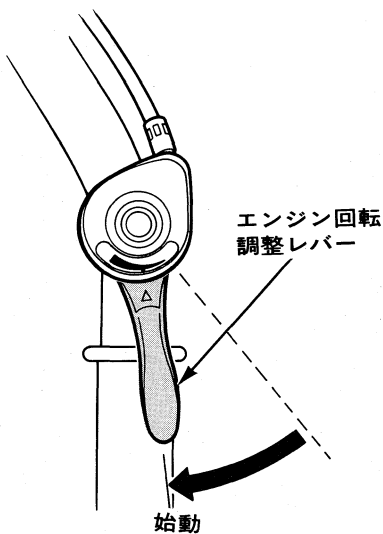
(K、KA、KC、KRタイプ)



3. 寒い時やエンジンがかかりにくい時には、チョークレバーを“始動”の位置にします。

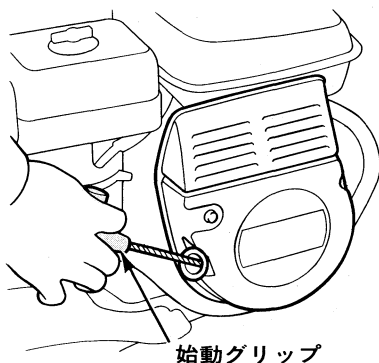


4. エンジン回転調整レバーを“始動”に合わせます。





5. 始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。

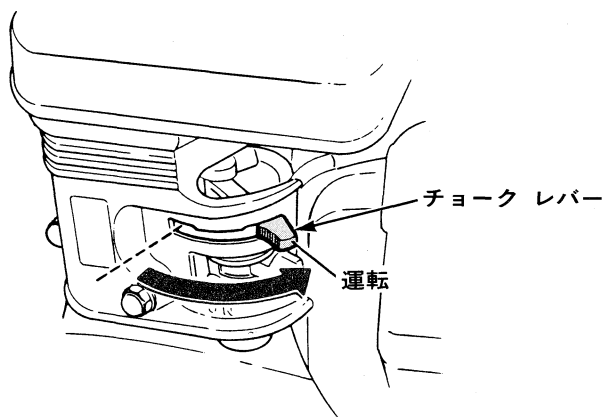


注意

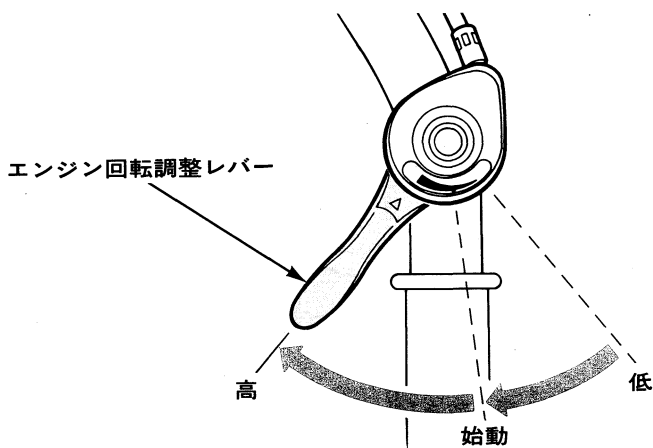
- ・グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置を破損することがあります。
- ・運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

6. 2～3分間暖機運転を行ないます。

チョークレバーを操作(始動の位置)したときは、エンジン回転が安定することを確認しながら“**運転**”の位置に戻します。



7. エンジン回転調整レバーを“高”方向にまわしてエンジン回転を上げます。



# 運 転 操 作 の し か た

★安全な作業を行なうために、十分に理解して行なってください。

## “変速”

### 1. 変速レバー

変速表の適応作業を目安に変速位置を選びましょう。

速度が早すぎても、遅すぎても運転の疲労、作業能率、仕上り等に弊害が出ます。

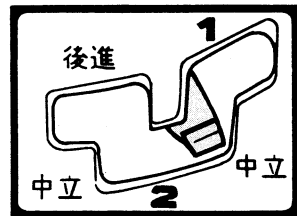
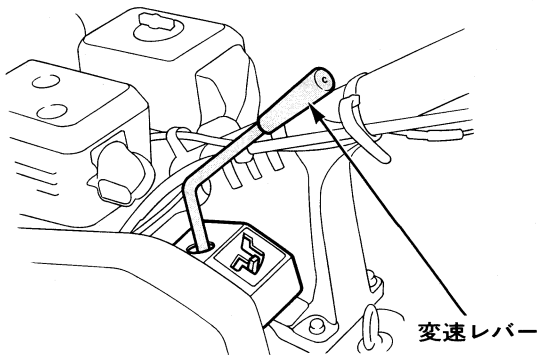
#### 変速の要領

- 1) 変速レバーは、必ずクラッチを切ってから操作します。
- 2) 変速レバーが作動しにくい時にはいったん“中立”に戻し、クラッチを入れて少し動かし、クラッチを切りもう一度操作します。
- 3) 後進の場合、特に足元に十分注意し低速で運転します。(BA、K、KAタイプ)

注意

・後進するときは、固定レバーを使用しないでください。(BA、K、KAタイプ)

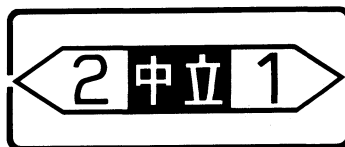
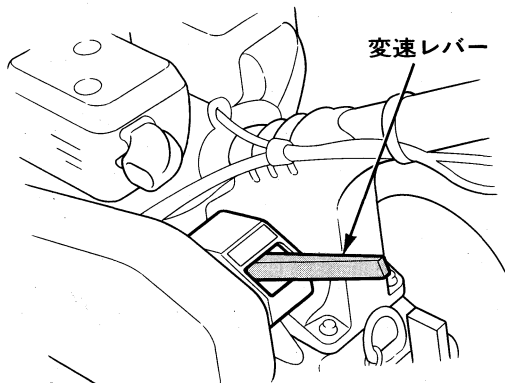
(BA、K、KAタイプ)



エンジン回転3600rpm時

変速	車軸回転数 (rpm)
1	72
2	103
後進	33

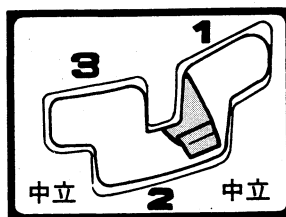
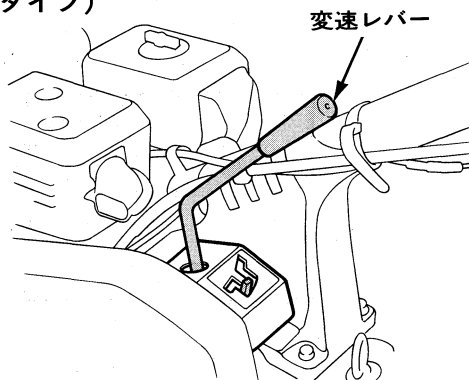
(KCタイプ)



エンジン回転3600rpm時

変速	車軸回転数 (rpm)
1	72
2	103

(KRタイプ)



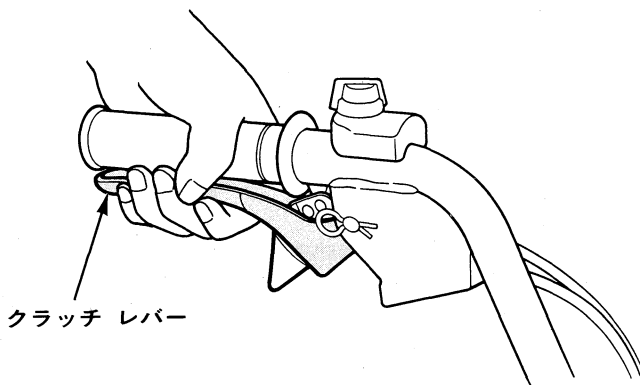
エンジン回転3300rpm時

変速	車軸回転数 (rpm)
1	32
2	58
3	102
P.T.O	1594

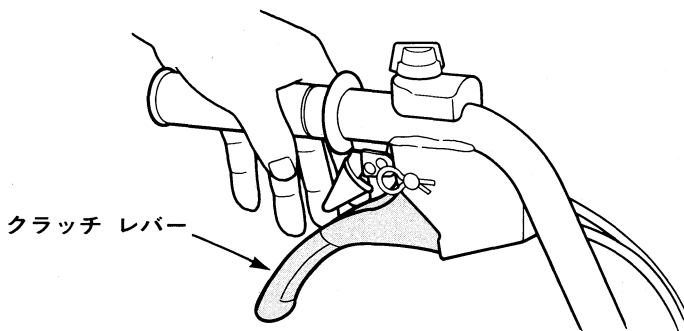
## “運転”

### 2-1. クラッチ レバー

クラッチ レバーを操作することにより、本機の走行及び停止が行なえます。  
レバーを握る→クラッチがつながり、本機が走行します。



レバーを放す→クラッチが切れ、本機が停止します。



- クラッチ レバーの操作は、静か(スムーズ)に行いましょう。
- 急激な操作を行うと本機が飛び出したり、エンジンが停止したりすることがあります。

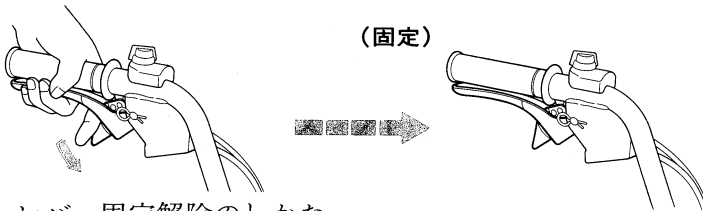
## 2-2. 固定レバー

固定レバーを操作することにより、クラッチレバーは握ったままの状態が保持できます。

固定レバーを使用する場合は十分クラッチ操作に慣れてから、又広い耕地及び身近に障害物のない場所で使用してください。

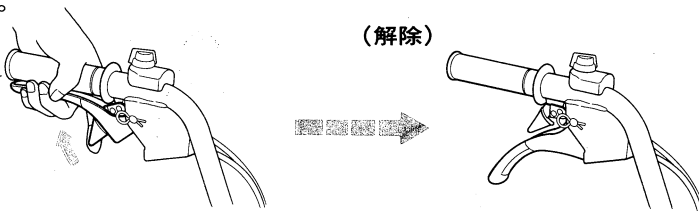
### ●クラッチレバー固定のしかた

クラッチレバーを握って固定レバーを人差し指で押すとクラッチレバーは固定されます。



### ●クラッチレバー固定解除のしかた

解除するときは、固定レバーを人差し指で手前に引き、クラッチレバーを放します。

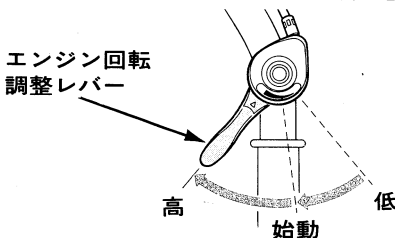


注意

- ・固定レバーは狭いハウス内、障害物のある耕地では使用しないでください。
- ・固定レバーを使用し作業を行なう時は、状況に応じすぐ解除できる状態を保ってください。

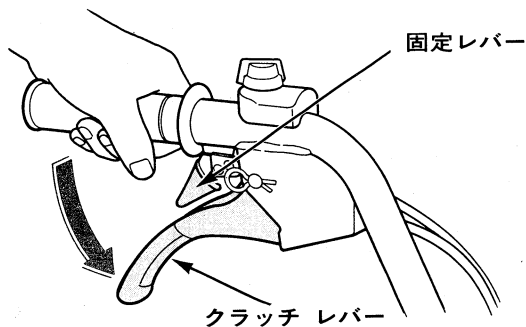
## 3. エンジン回転調整レバー

レバーを“高”方向にまわし、エンジン回転を上げます。

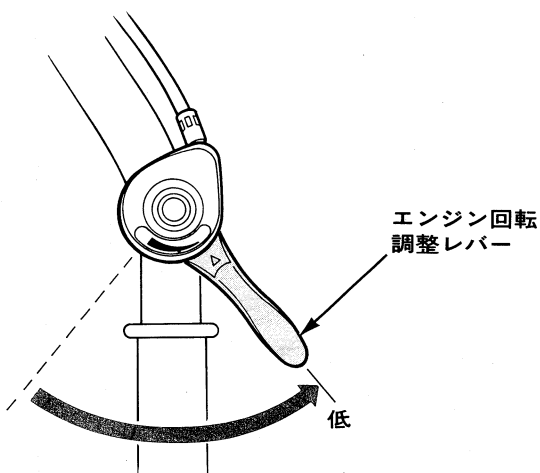


# エンジンのとめかた

1. クラッチ レバーを“切”にします。
  - クラッチ レバーが固定されている場合は固定レバーを引いてからクラッチ レバーをはなして“切”にします。



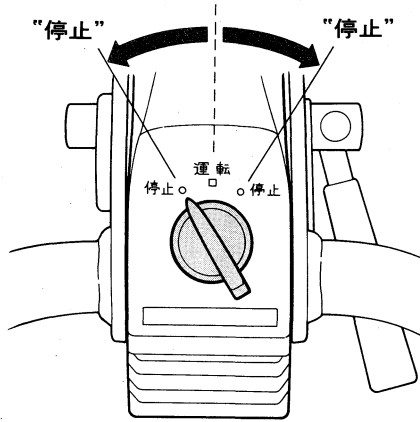
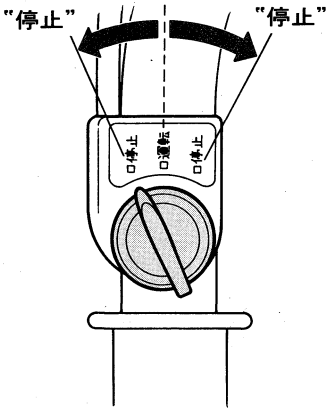
2. エンジン回転調整レバーを“低”の位置に戻します。



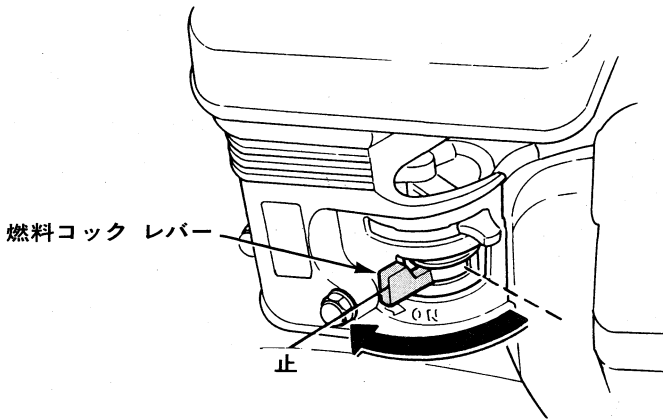
3. エンジン スイッチを“停止”に合わせます。

(BAタイプ)

(K、KA、KC、KRタイプ)



4. 燃料コック レバーを“止”に合わせます。



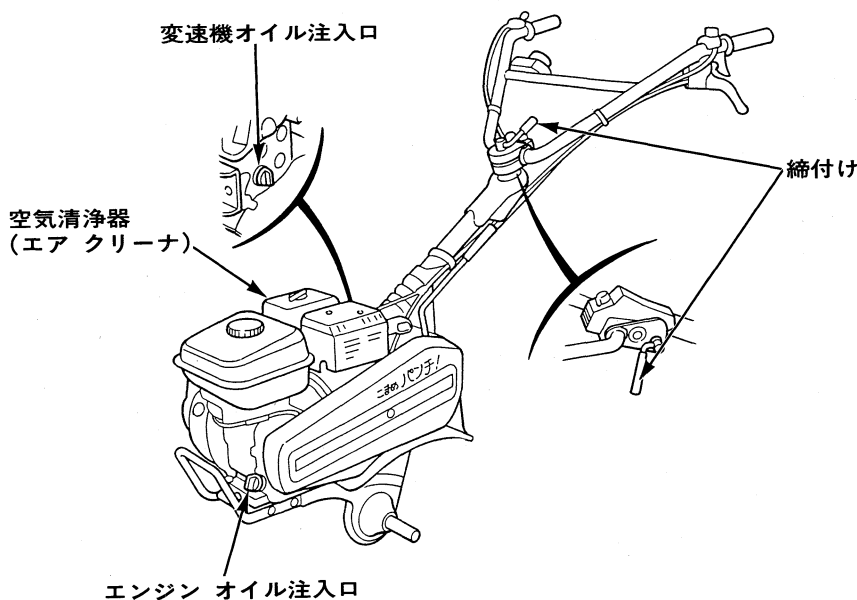


# 定期手入れを行ないましょう

## 日常点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行なってください。

- エンジン オイル……規定量入っているか。洩れはないか。
- 変速機オイル……規定量入っているか。洩れはないか。
- 空気清浄器……汚れていないか。
- ガソリン……残量
- 異常個所……前日悪かった所
- 各部の締付け……ハンドル固定レバー、ハンドル高さ調整レバーにゆるみ、がたはないか。
- その他異常を感じたらただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。



## 定期点検

お買いあげいただきましたティラーをいつまでも調子よく、長持させるために定期点検を受けましょう。

点検項目	点検時間	仕業点検	初回 20 時間目	50 時間 運 転 毎	100 時間 運 転 毎	300 時間 運 転 毎 又 は 1 年 に 1 回
エンジン オイル <注1>	点検	○				
	交換		○		○	
空気清浄器	点検	○				
	清掃			○ <注2>		
変速機オイル <注1>	点検	○				
駆動ベルト	調整		○		○	
燃料ろ過カップ	清掃				○	
点火プラグ	清掃 調整				○	
エンジン回転調整ワイヤー	調整					○
クラッチ ワイヤー	調整		○		○	
吸入、排気弁間隙	点検					○ <注3>
	調整					
燃料タンク、燃料ろ過網	清掃					○ <注3>
燃料チューブ	交換					3 年 毎 <注3>

<注1> エンジン オイル……稼働期前にも必ず交換してください。

変速機オイル……稼働期前に汚れ具合を確認し、汚れがひどい場合は交換してください。

<注2> ほこりの多い作業の時は10時間毎または1日1回清掃する。

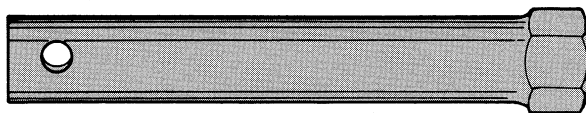
<注3> これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

# やさしい点検・整備

★点検・整備は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンをとめて行なってください。

## 携帯工具

工具は、点検・整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。



プラグレンチ

※点火プラグの取付け、取外しに使用出来ます。

## エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。  
交換時期、オイル容量を守りましょう。

### 《交換時期》

初回：20時間目、以後：100時間運転毎

推奨オイル：ホンダ純正①ウルトラネオ汎用機用(SAE30)

### 《規定量》

②ウルトラ—U<2 輪車用>(SAE10W—30)

またはAPI分類SE、SF級相当のSAE10W—30オイルをご使用ください。

注意

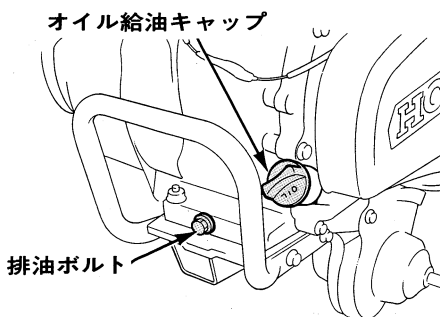
- ・低温時(気温10℃以下)では、ホンダ純正ウルトラ—U<2 輪車用>SAE10W—30のオイルをご使用ください。
- ・寒冷時(気温—15℃以下)では、API分類SE、SF級相当のSAE 5 W—30のオイルをご使用ください。

### 《規定量》

0.6 l

### 《交換のしかた》

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。エンジンが暖かいときに行なうと、エンジン内に残る量が少なく早く抜けます。
2. 排油ボルトをきれいに洗い、確実に締付けます。
3. 注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。



注意

- ・エンジン停止直後は、エンジン本体、油温が高くなっていますので、やけどをしないよう注意してください。
- ・オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行なしましょう。
- ・必ずエンジンを水平にし、オイルを給油してください。

## 変速機オイルの点検

変速機オイルの量が少ないと変速機各部の摩耗を早めます。

推奨オイル：ホンダ純正①ウルトラネオ汎用機(SAE30)

《規定量》 0.95 ℓ ②ウルトラ-U<2 輪車用>(SAE10W-30)

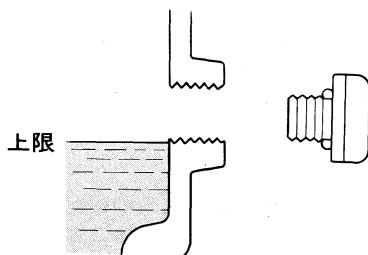
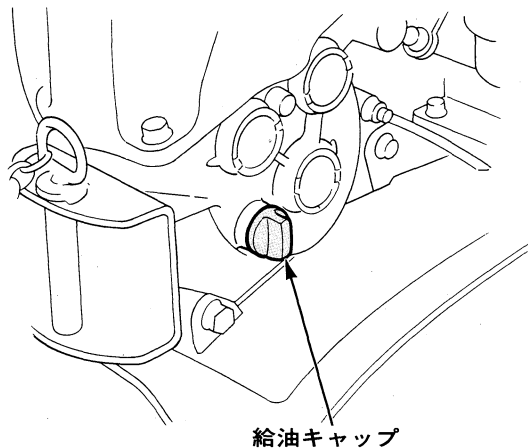
またはAPI分類SE、SF級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

注意

- ・低温時(気温10°C以下)では、ホンダ純正ウルトラ-U<2 輪車用>SAE10W-30のオイルをご使用ください。
- ・寒冷時(気温-15°C以下)では、API分類SE、SF級相当のSAE 5W-30のオイルをご使用ください。

### 《補給》

- ・変速機オイルは特に交換不要ですが少ない時には新しいオイルを口元まで補給します。



## 空気清浄器(エア クリーナ)の清掃

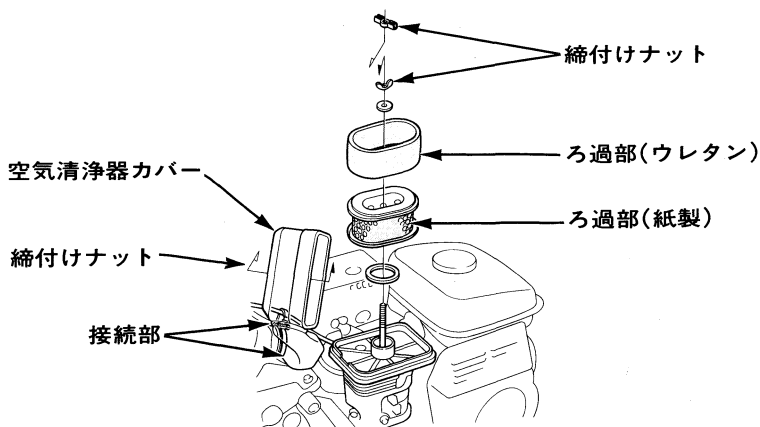
空気清浄器が目詰りをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

### 《清掃時期》

50時間運転毎

ほこりの多い場所で使用した場合は10時間毎または1日1回清掃してください。

1. 締付けナットをゆるめ、図のように空気清浄器カバーを取り、ろ過部を取り外します。
2. ウレタンのろ過部は洗油で洗い、よく絞って乾かします。乾燥後ろ過部(ウレタン)をエンジン オイルに浸した後固く絞ってから取付けます。
3. 紙製ろ過部は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落します。汚れがひどい場合は交換してください。
4. 点検後は空気清浄器カバーを確実に取付けたあと、接続部がはずれていないか確認してください。



### 注意

- ・火気厳禁
- ・空気清浄器カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- ・空気清浄器カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け不良をすると、エンジンに悪影響を与える原因になります。

## 点火プラグの清掃、調整

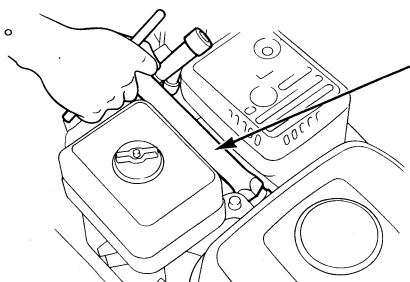
電極が汚れたり、火花すきまが不適當ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

### 《清掃時期》

100時間運転毎

### 《清掃》

1. プラグ レンチで点火プラグを取外します。
  2. プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。
- ・プラグ クリーナが無いときは、針金かワイヤー ブラシで汚れを落してください。



使用工具 ・ プラグ レンチ

### 《調整》

- ・側方電極をつめ、火花すきまを0.7—0.8mmに調整します。

### 《標準プラグ》

BP5ES (NGK)

W16EP-U (ND)



0.7—0.8mm  
(はがき 3枚が入ります)

- ・標準以外のプラグを使用しないでください。

注意

- ・エンジン停止直後は温度が高いため、やけどをしないよう注意してください。
- ・プラグの取付けは、ねじ山をこわさないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。

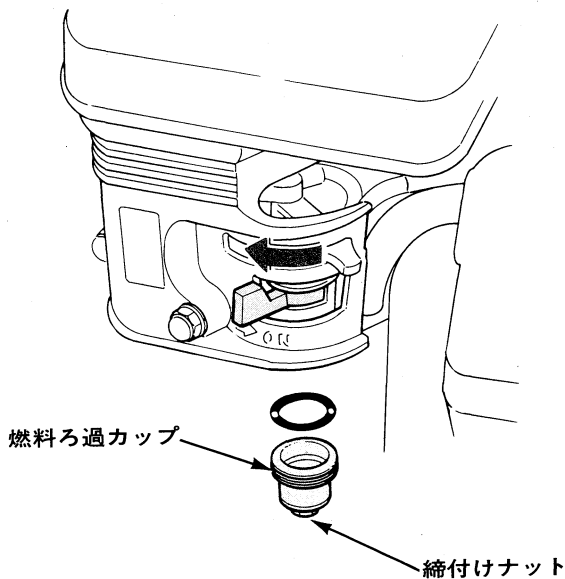
## 燃料ろ過カップの清掃

燃料ろ過カップ内にゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

### 《清掃時期》

100 時間運転毎

1. 燃料コック レバーを“止”にします。
2. 燃料ろ過カップを取外します。
3. 燃料ろ過カップを洗油でよく洗い底にたまったゴミや水を取り除きます。
4. 清掃後、ガソリン洩れのないよう締付けナットを確実に締付けてください。



注意

・燃料ろ過カップ清掃中は火気厳禁。



## エンジン回転調整ワイヤーの調整

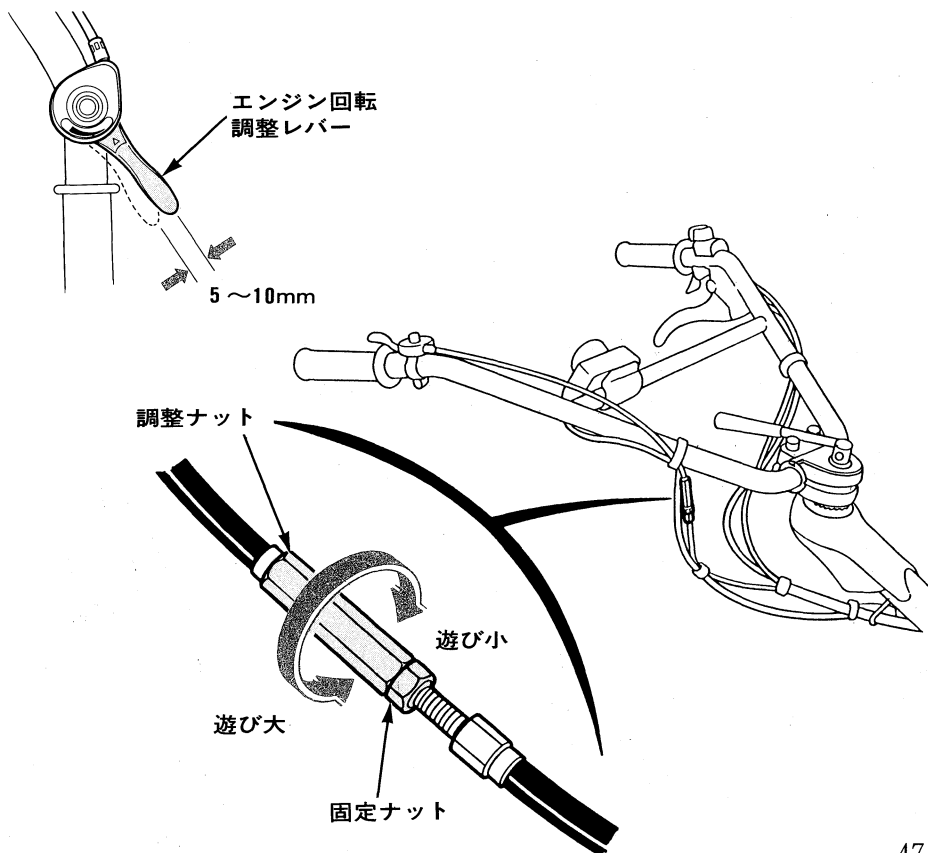
エンジン回転調整ワイヤーの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

### 《調整時期》

300 時間運転毎または 1 年 1 回

### 《調整》

1. エンジン回転調整レバーの遊びが、先端で 5 ~ 10 mm になるように調整します。
2. 調整は、固定ナットをゆるめ調整ナットをまわして行なってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



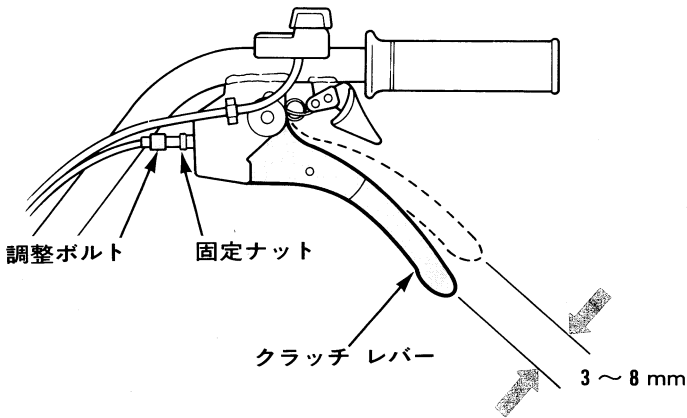
## クラッチ ワイヤーの調整

クラッチ ワイヤーの調整が完全でないとベルトがすべります。

### 《調整時期》

初回：20 時間目、以後：100 時間運転毎

1. クラッチ レバーの遊びがレバー先端で 3 ～ 8 mm になるように調整します。調整は固定ナットをゆるめ調整ボルトで行ないます。



2. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

### 注意

- ・クラッチ ワイヤー調整時には、必ずエンジンを止めてください。突然車軸が回転することがあります。

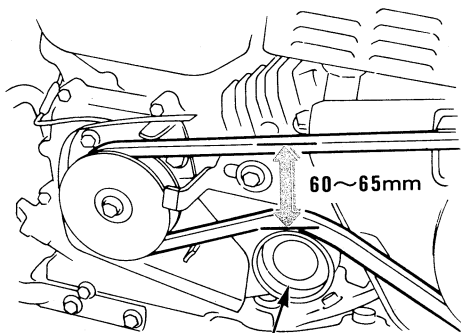
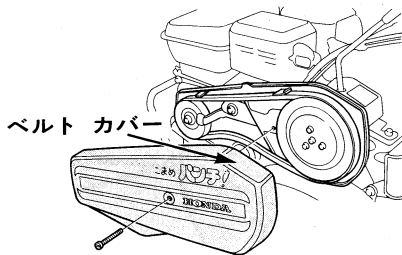
## 駆動ベルトの調整

ベルトがすべると動力を損失するばかりでなく、ベルトの傷みがいちじるしく早くなります。

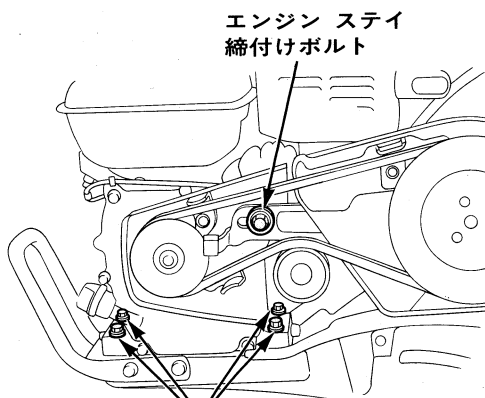
### 《調整時期》

初回：20 時間目 以後：100 時間運転毎

1. クラッチ ワイヤを調整します。(P.48)
2. ベルト カバーを取り外します。
3. クラッチ レバーを握った状態、または固定レバー使用の状態(クラッチが“入”の状態)で、テンション部のベルト間隔が 60～65 mm になるように調整します。
4. 調整はエンジン ステイ締め付けボルト、エンジン締め付けボルトをゆるめ、エンジンを前後に動かして行ないます。
5. 調整後、ボルトは確実に締め付けてください。



ベルト テンショナ

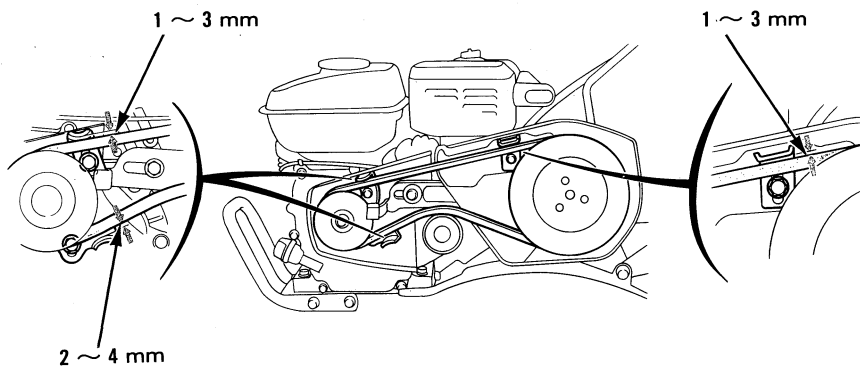


エンジン締め付けボルト

### 注意

- 調整時エンジン側プーリーの面と変速機側プーリーの面を合わせてください。合わせないとベルトが早く傷みます。
- 調整後、ボルトは確実に締め付けてください。ボルトがゆるみエンジンが脱落しておもわぬ事故が発生します。

6. ベルトとベルト ストッパのすき間を図のように調整します。



7. 調整はストッパ締め付けボルトをゆるめ、ストッパを上下に動かして行ないます。

8. 調整後、ボルトは確実に締め付けてください。

9. ベルト カバーを取り付けます。

注意

・ベルト カバーを必ず取り付けてください。取り付けないで作業すると衣類が巻き込み、思わぬ事故を招くことがあります。

# 長期間使用しない時の手入れ

★長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行なってください。

1. エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐ為点火プラグ キャップをプラグから取外します。

①燃料タンク、気化器内のガソリンを抜きます。

## 〈抜き方〉

1. 燃料コック レバー、“出”にします。

・気化器(キャブレータ)のドレン ボルトをゆるめ気化器内及び燃料タンク内のガソリンを抜きます。

・完全に燃料が抜けたら燃料コック レバーを“止”にします。

2. エンジン オイルを交換します。(42頁参照)

3. 空気清浄器を清掃します。(44頁参照)

4. 始動グリップを重くなるまで引きます。(エンジン バルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になる。)

5. クラッチ レバーを“切”にします。

## 注意

- ・ドラック バーを取外し、ハンドルを地面に付けた状態で保管するとエンジンがかかりにくくなることがあるので必ず本機は水平の状態での保管ください。
- ・燃料を抜く時は火気厳禁。
- ・風通しの良い場所で行なってください。
- ・抜いた燃料の後始末は十分に行ってください。

# 故 障 の と き は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことがティラーを長持ちさせる秘けつです。

始動しない時は次の点を確認しましょう。

- ガソリンはありますか？
- エンジン オイルは注入口、口元までありますか？
- 点火プラグから火花が出ますか？

次の点検をする前に、エンジンやその他の所にガソリンが付着していないか確認してください。ガソリンが付着していると引火するおそれがあるので蒸発するのを待つか、またはウエスで完全にふきとってから行なってください。

プラグを外し、プラグ キャップに取付けプラグをエンジンにアースさせ(感電を避けるためにプラグ キャップ以外には触れないでください。)、エンジン スイッチを“運転”の位置にして、始動グリップを強く引きまします。この時プラグの電極に火花が飛ぶか確認します。

注意

・この点検は風通しのよい場所で行なってください。

- 始動方法は、取扱説明書通りですか？

クラッチが作動しない時は次の点を確認しましょう。

- クラッチ ワイヤの調整方法が取扱説明書通りですか？

~~~~~少し時間をおいて

もう一度確かめましょう~~~~~

故障の修理

お買いあげ販売店へお申しつけください。

# 主 要 諸 元

|                  |                   |                        |      |
|------------------|-------------------|------------------------|------|
| 名                | 称                 | F310                   |      |
| 型                | 式                 | F310                   |      |
| 区                | 分                 | K                      | KA   |
| 機<br>体<br>寸<br>法 | 全 長 (mm)          | 1,320                  |      |
|                  | 全 幅 (mm)          | 635                    |      |
|                  | 全 高 (mm)          | 970                    |      |
|                  | ハンドル幅 (mm)        | 600                    |      |
| 全 装 備 重 量 (kg)   |                   | 46                     | 36.5 |
| エ<br>ン<br>ジ<br>ン | 名 称               | ホンダGX110               |      |
|                  | 形 式               | 空冷4サイクル1気筒25°傾斜ガソリン    |      |
|                  | 総排気量 (cc)         | 107                    |      |
|                  | 定格出力/回転速度(ps/rpm) | 2.7/3,600(最大3.5/4,000) |      |
|                  | 使 用 燃 料           | 自動車用無鉛ガソリン             |      |
|                  | 燃料タンク容量(ℓ)        | 1.4                    |      |
|                  | エンジンオイル容量(ℓ)      | 0.6                    |      |
|                  | 点 火 方 式           | トランジスタ マグネット点火         |      |
| 始 動 方 式          | リコイル スタータ         |                        |      |
| ク ラ ッ チ 方 式      | ベルト テンション         |                        |      |
| 変<br>速<br>段<br>数 | 前 進               | 2段                     |      |
|                  | 後 進               | 1段                     |      |
| 安 全 鑑 定 適 合 番 号  |                   | 802011                 |      |

注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

|                  |                    |                            |                            |                            |
|------------------|--------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 名                | 称                  | F310                       |                            |                            |
| 型                | 式                  | F310                       | F310P                      | F310                       |
| 区                | 分                  | KC                         | KR                         | BA                         |
| 機<br>体<br>寸<br>法 | 全 長 (mm)           | 1,320                      |                            |                            |
|                  | 全 幅 (mm)           | 635                        |                            |                            |
|                  | 全 高 (mm)           | 970                        | 970                        | 1,000                      |
|                  | ハンドル幅 (mm)         | 600                        |                            |                            |
| 全 装 備 重 量 (kg)   | 45                 | 38 (ロータリなし<br>ドロックバー付)     | 38                         |                            |
| エ<br>ン<br>ジ<br>ン | 名 称                | ホンダGX110                   |                            |                            |
|                  | 形 式                | 空冷4サイクル1気筒25°傾斜ガソリン        |                            |                            |
|                  | 総 排 気 量 (cc)       | 107                        |                            |                            |
|                  | 定格出力/回転速度 (ps/rpm) | 2.7/3,600<br>(最大3.5/4,000) | 2.5/3,300<br>(最大3.5/4,000) | 2.7/3,600<br>(最大3.5/4,000) |
|                  | 使 用 燃 料            | 自動車用無鉛ガソリン                 |                            |                            |
|                  | 燃料タンク容量 (ℓ)        | 1.4                        |                            |                            |
|                  | エンジンオイル容量 (ℓ)      | 0.6                        |                            |                            |
|                  | 点 火 方 式            | トランジスタ マグネット点火             |                            |                            |
|                  | 始 動 方 式            | リコイル スタータ                  |                            |                            |
| ク ラ ッ チ 方 式      | ベルト テンション          |                            |                            |                            |
| 変<br>速<br>段<br>数 | 前 進                | 2 段                        | 3 段                        | 2 段                        |
|                  | 後 進                | ————                       | ————                       | 1 段                        |
| 安 全 鑑 定 適 合 番 号  | 802011             | 902001                     | 802011                     |                            |

注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。





メ モ

# HONDA

本田技研工業株式会社  
東京都港区南青山2-1-1

30733651  
00X30-733-6510

K2 ㊞ 20009002